

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	北翔大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ホクショウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	生涯スポーツ学部・教育文化学部
	担当教職員名・役職	キャリア支援センター長 佐藤 至英
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	15
	受入企業等数	13
	受入企業等名	株式会社シンク、株式会社ノーアスク、トヨタカローラ札幌株式会社、NPO法人 子どもサポートどろんこクラブ、株式会社アセットプランニング、株式会社紀伊國屋書店 札幌本店、江別市役所、パルス薬局、株式会社朝日サービス、有限会社シャイニング、北海道庁、株式会社ディスコ、社会福祉法人はるにれの里
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	映像製作会社での映像製作体験、自動車販売会社での営業同行、児童デイサービスでの児童支援活動、不動産会社での物件見学・清掃、市役所での取材同行、書店での商品管理業務、薬局での受け付け業務、広告代理店での折り込みチラシ作成、グループホームでのレクリエーション補助等
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次・3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		企業等での研修を通じて、就業力を育成することを目的としている。インターンシップでは①日々学んでいる専門性を実践の場で発揮する機会として、②自ら選択した職種の適性を判断する機会として、③進路とは異なる業種・職種を経験する機会として等、各自の目的に応じて活用することが可能であり、将来の進路選択の際に必要な様々な知識の吸収や社会に通用する価値観の獲得、および社会人としての基礎力を培うことを目指す。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	

	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの主旨を理解するための事前説明会の実施、マナー講習(2回)の実施、実習先の概要を把握するとともに実習目標を立てるための研究シート作成を必須事項として実施している。また希望者にはパソコン講習を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	自ら活動を振り返るために日報、自己評価書、成果報告書の提出を必須事項としている。また報告会にて自らの学びを発表するとともに、他の実習生の報告から互いに得た学びを共有する機会としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習終了後、学生がインターンシップで得たこと・それを今後どのように活かすかという観点から振り返り、レポート作成をすることで、よりインターンシップを通して得た学びを深く考察できるよう指導している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日～11日間、及び31日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	NPO法人 子どもサポートどろんこクラブ、株式会社アセットプランニング、パルス薬局、有限会社シャイニング、株式会社ディスコ、北海道庁、社会福祉法人はるにれの里にて5日間のインターンシップを行った。トヨタカローラ札幌株式会社にて7日間のインターンシップを行った。株式会社シンク、株式会社紀伊屋書店 札幌本店、株式会社朝日サービスにて10日間のインターンシップを行った。株式会社ノーアスクにて11日間のインターンシップを行った。江別市役所にて30日間のインターンシップを行った。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業の担当者に評価書を作成してもらい、研修態度・理解力・実行力等の項目に従って学生に対する評価をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/syllabus/index.html
問い合わせ先	大学等名	北翔大学
	担当部署名	キャリア支援センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	011-387-3659
	メールアドレス	career@hokusho-u.ac.jp